



コレクションルームの作品を
みんなで研究しよう！

E-042

八木一夫(やぎ かずお)
大正7年-昭和54年
作品 51「雲の記憶」
(さくひんごじゅういち くものきおく)
昭和34年
焼締 木製台付
50.5×33.0×23.5 cm
第18回走泥社展
購-1959

K-042

Yagi Kazuo
1918-1979
Work No.51 "Memory of Clouds"
1959
Unglazed earthenware; wooden base
50.5×33.0×23.5 cm
18th Sodeisha Group Exhibition
p-1959

かんせい だんわしつ と
・完成したシートを談話室の「ほんまかファイル」に綴じてください。
かつどう きろく けいさい ばあい
・このシートは、ラーニング・プログラムの活動記録に掲載される場合があります。

けんきゅう
研究にチャレンジしよう!

くうそう そうぞう よ かんが か のこ
空想でも想像でも良いので、みなさまの考えを書き残してください。

せいがい
(正解はひとつではありません)

ちい こ つ かた こ かんが か のこ
小さなお子さま連れの方は、お子さまの考えも書き残してください。

さくひん み しつもん こた
 作品を見て質問に答えよう!

さくひん かた くらい おも おも
 1. この作品の硬さはどれ位だと思いますか。なぜそう思いますか。

さくひん おも くらい おも おも
 2. この作品の重さはどれ位だと思いますか。なぜそう思いますか。

さくひん ばしょ ふう かざ
 3. あなたなら、この作品をどんな場所にどんな風に飾りますか。
なぜそう思いますか。

さくひん み ふた か
 4. この作品の見どころを、二つ書いてください。
なぜそう思うかも書いてください。

ほか おも おも しつもん か
 5. その他にも思ったことや、思いついた質問があれば書いてください。

さくひん
● **作品について**

さくしゃ や ぎ かず お たいしやう ねん きやうとし う ちち さくとうか や ぎ いっそう
作者の八木一夫は、大正7(1918)年に、京都市で生まれます。父は作陶家の八木一艸。
きやうと しりつ びじゆつ こうげい がっこう ちやうこく か そつぎやう ご しょうこうしやう とうじき しけんしや だんしやうせい めま たいち が
京都市立美術工芸学校彫刻科卒業後、商工省陶磁器試験所伝習生となり、沼田一雅
とうちやう まな せいねん さくとうか しやうだん けっせい さんか のち しょうわ ねん やま だ
に陶彫を学びます。青年作陶家集団の結成に参加した後、昭和23(1948)年には山田
ひかる すず き おさむ そうでいしや けっせい とうげい ぎじゆつ れきし そく ほう ちやうこくてき
光、鈴木治らと走泥社を結成し、陶芸の技術と歴史に則しながらも用を排した彫刻的
とうげい てんかい しょうわ ねんざろ そじ せいけい ゆうやく ほどこ
陶芸を展開しました。昭和30(1955)年頃からは、素地を成形したのちに釉薬を施さず
しょうせい やまし ちゆうしん ぞうけい てんかい ほんさく さくひん くも きおく そじ
に焼成する焼締めを中心に造形を展開しました。本作《作品 51「雲の記憶」》では素地
くしめ つ せいめいたい おも やわ もの げんかい しめ
に櫛目が付られ、生命体を思わせる柔らかなフォルムと、焼き物としての限界を示すよう
えいじ せんどう そうばん ひやうじやう きやうぞん や ぎ すると そうけい かんかく つち そせい じゆくち
な鋭利な尖頭という相反する表情の共存に、八木の鋭い造形感覚と土の素性の熟知が
かん こ ひと しぜん かか たく みちび してき
感じられ、さらにはタイトルの語によって人と自然の関わりのイメージに巧みに導く詩的
かんかく みいだ
感覚を見出すことができます。